

# 会 議 録

(1 / 6)

会 議 の 名 称	令和7年度 第3回坂戸市市民参加推進会議
開 催 日 時	令和7年6月19日(木) 午後2時00分 開会 ・ 午後3時06分 閉会
開 催 場 所	坂戸市中央地域交流センター 2階 学級室B
議長(委員長・ 会長)の氏名	柳澤智美会長
出席者(委員)の 氏名・出席者数	久保彰子委員、矢島秀章委員、松林豊委員、高橋奈穂委員、 森川理江委員、島和男委員 計6名
欠席者(委員)の 氏名・欠席者数	0名
事務局職員の 職・氏名	市民部 小澤部長、仲島次長 市民生活課 片野課長、徳永課長補佐、小澤主任、 仲村主事
会 議 次 第	1 開 会 2 挨 拶 3 審議事項 (1) 令和7年度坂戸市提案型協働事業について (2) その他 4 閉 会
配 布 資 料	・ 会議次第 ・ 資料1 令和7年度提案型協働事業事前採点結果 ・ 資料2 令和7年度提案型協働事業事前採点コメント一覧 ・ 参考 提案型協働事業審査要領

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 会長挨拶</p> <p>3 審議事項</p>
事務局	<p>(1) 令和7年度坂戸市提案型協働事業について 令和7年度坂戸市提案型協働事業採点結果について、資料1～2のとおり説明。</p>
委員	<p>審査要綱の6の平均24点未満のものは採択対象外となっているが、提案型協働事業が開始された当初から基準は変わっていないのか。</p>
事務局	<p>当初は採点方法が6項目各5点の合計30点満点で評価しており、満点に対して40%である12点未満を採択対象外としていた。その後平成31年度に採点方法を変更し、1項目10点で合計60点としたため、満点に対する40%の24点については実質変わっていない。</p>
委員	<p>この事業が始まった当初から申請団体の推移はどうなっているのか。</p>
事務局	<p>令和5年度に7団体の申請があったのが最多である。</p>
委員	<p>申請件数が増えることも大事だが、団体の質も考えなくてはならないと思う。また、市との協働事業であるため、市の取組みなども考えて、委員として審査基準の見直しや申請件数が増えるような広報活動を検討していくべきなのではないかと考える。</p>
会長	<p>平成26年度から開始し一時的には件数が減った時もあったが、最近では少し件数が増えてきたように思える。 申請件数を増やしていくためには、審査項目や基準を改めていかなくてはならないと思う。</p>
委員	<p>次回の会議が来年1月であるため、次回の審議会までに我々も審査項目や基準も検討していくべきだと考える。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	<p>Sky's が高齢者の送迎を行っているが、ボランティア団体が送迎を行うことに対して、料金を徴収しても良いのか疑問に思ったため調べたところ、徴収しても良いとのことであった。</p> <p>利用料金の額は、見識がある方が示さないとタクシー会社等の交通・運輸業とトラブルになってしまう可能性があると考えられる。また、Sky's はボランティア団体であるため、一般的なドライバーが入っている保険とは違う保険の加入が必要とも書かれてあった。Sky's はそういった保険に入っているのか不明なため、後日団体から回答してもらった方が良く考える。</p>
会長	<p>今の内容を該当団体へ説明し、後日委員へ回答を送付することは可能か。</p>
事務局	<p>団体に聞くことは可能であるが、少々時間をいただきたい。</p> <p>Sky's を構成している個々の団体は既に活動しているため、利用料金や保険の加入については、クリアされているものと思われる。また、今回、Sky's が実施を予定している事業は、送迎サービスについて不安や疑問がある人に対して、講演会を開催し、正しい知識と担い手を増やしていくといった取り組みである。各委員も講演会にお越しいただければ、ここで議題に上がった疑問が解決できるのではないかと思うので、Sky's から講演会の詳細情報が届き次第、各委員へお知らせする。</p>
委員	<p>一般的な車の保険と、事業として活動する車の保険では、保険内容が違うため、団体が加入している保険がどういった保険で、どの範囲の内容が適用されるか、確認した方が良く思う。</p>
委員	<p>自分の体験談であるが、介護タクシーは利用料金が高額のため毎回利用するのは不可能であり、自分たちでなんとか送迎をしなくてはならなかった。社会福祉協議会では介護タクシーの貸し出しを行っているが、予約制であり、なかなか予約が取れないこともあった。車椅子での移動が必要な人が急に外出する必要性が生じた場合、介護者も大変苦勞することになるため、こういったボランティアが普及していくことに期待したい。</p>
委員	<p>越生町の社会福祉協議会では、ボランティアを募って高齢者の移送サービスを行っており、ボランティアに対しては、謝金として商品券を配付している。移送サービスを行う中で、何かあった時には自分の車の保険を使うこととなっている。理由としては、事業ではなく、ボランティアであるため、自分の車の</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	保険を使用することは適用内である。Sky's が実施する講演会に社会福祉協議会の職員や福祉に関係する多くの方に参加していただければ良いと思う。
委員	事故が起きたときは、状況によって保険の適用範囲が変わってくることもある。今回の講演会で、移送サービスの保険のことや介護者に対してどこまで手を差し伸べても良いのか等を聞いたら有意義なものになるのではないかと。
会長	Sky's に今回の内容を伝えてもらいたい。私は当日の講演会もぜひ参加したいと考えている。 他に意見・質問等はあるか。
委員	団体に交付する補助金が減額する可能性はあるのか。
事務局	団体が申請した金額よりも補対象経費が下回る場合には、減額する可能性がある。
委員	ふれあいスペース 103 について、経費が 10 万円かかるのか疑問に思うが、現時点での申請額という認識で良いのか。
事務局	補助金の申請額が 10 万円であるため、この事業を採択する場合には 10 万円の交付決定をすることになる。最終的に実績報告を提出する段階で、経費が 10 万円以下であれば、変更申請により減額して交付決定することはある。 また、申請の段階で明らかに対象ではない経費がある場合は、事務局から対象にならない旨を説明しているため、補助金が補助対象外の経費に充てられることはない。
委員	委員としても、できるだけ現場に足を運び、こういった活動をしているのか確認することとしたい。
会長	例年、郵送で開催チラシ等を送付していただいているが、メールにて送付することは可能か。
事務局	可能である。今年度からメールにて委員へ送付する。
委員	委員が視察した結果を、事務局へフィードバックしなくてよいのか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	結果の報告は強制していないが、もし結果を報告していただけるのであれば、事務局内でも共有させていただく。
会長	他に意見・質問等あるか。
委員	最近の申請団体の傾向として、こども食堂の件数が多くなってきていると感じる。この補助金を3年間申請した後の活動に対してもサポートが必要であると考えている。私たちもサポートできないことがないか調べ事務局へ報告するので、調べた結果を随時団体へ共有していただきたい。
委員	参考までに、埼玉県のこども食堂のネットワークがあるのだが、最近では各地でこども食堂がなくなってしまうと聞いた。原因としては物資の保管場所がないことや物価の高騰等であり、浦和でもこども食堂がなくなったと聞いた。 多くの団体が個人的なボランティアで行っており、代表者が退いてしまうと団体が崩れるといった組織体制になりつつあるため、このような組織体制を改善していくべきだと思う。
会長	ほかに意見がないようであれば、今年度に申請のあった4団体を採択することで決定させていただく。
事務局	<b>(2) その他</b> 次回の開催日は、令和8年1月22日(木)午後2時からを予定している。
会長	2点ほど委員の皆様提案したいことがある。 1点目は、提案型協働事業審査要領の審査項目及び基準について、申請団体が初年度の場合と2年目以降の場合の審査基準が同じでも良いのか疑問に思っている。活動内容を去年よりプラスαして変化していけば、団体が継続しやすくなるのではないかと考える。そのため、審査項目や基準を初年度の場合と2年目以降の場合で変更していくべきなのか、または新たに項目を追加するべきなのか、意見を伺いたい。 2点目は、申請してきている団体が似たような活動内容が多く、新たな活動内容の団体が申請しづらくなってきているのではないかと感じる。先行き不透明な団体に補助金を交付することは難しいが、先見性や新たな価値観を認めていけば、この補助金が最大限活用されるのではないかと考える。そのため、今後の会議の中で、新規の団体が申請しやすい環境づくりを考案

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	<p>していきたい。</p> <p>以上の2点について、次回の会議までに意見を伺えればと思う。</p>
委員	<p>少子高齢化等の影響により人口も減少しているが、市が抱えている課題は多くあると思う。委員として、広い視野をもって市政に携わっていきたい。</p>
委員	<p>先ほどの協議事項で、提案型協働事業を申請している団体の多くがこども食堂であると話が上がったが、坂戸市は他市に比べて遅れてこども食堂が立ち上がり、ここ数年に提案型協働事業を申請しているのが現状である。今後は、対象者をこどもだけでなく高齢者や地域と連携して、新たな事業を展開していければよいと考える。</p>
委員	<p>提案型協働事業は、市民が身近に感じる課題を行政と一緒に解決していくというのが目的であるため、提案型協働事業で課題解決のきっかけづくりを与えていくべきだと思う。3年の中で、2年目以降に新たな活動を行う等の基準を設けるよりは、いかにその課題解決の活動が継続できるかをバックアップしていくべきだと考える。例えば2年目は行政の窓口を増やし横のつながりを広げていく等の案内を行っていかればよいと思う。</p> <p>また、3年間提案型協働事業を申請した後に、団体が活動を継続できているのか、どのような工夫をして活動しているのかな等を調査するべきだと思う。団体においても、ボランティアが集まらなると活動できない等の課題があるため、団体側から市民全体を対象に普及・啓発活動を行っていくのが良いと思われる。</p>
委員	<p>実際に昨年まで提案型協働事業を申請されていた団体は、今年も活動を続けており、人とのつながりから新たな方がボランティアスタッフに携わったと聞いた。このような成功例をアピールしていくことが重要であると考えている。</p>
委員	<p>行政の方から、今後はどのような課題があるのか提示し、市民とともに課題を解決していくことが理想だと思う。</p> <p>情報共有として、昨年度、提案型協働事業を申請していた「ご縁のおうち」が、昨年度と違った運営形態で活動していくと話があったため共有する。</p>
	<p><b>4 閉会</b></p>